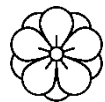


「児童理解と合理的配慮のために」

きつおん
吃音



青梅市立河辺小学校
ことばときこえの教室

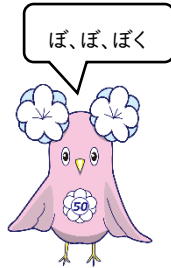
東京都青梅市河辺町5-24
0428-22-2103

WEB



○吃音ってどんなこと？

これらの主な症状が発話時に表れ、流暢性が低下してしまいます。



れんぼつ
①連発(繰り返し)



しんぼつ
②伸発(引きのばし)

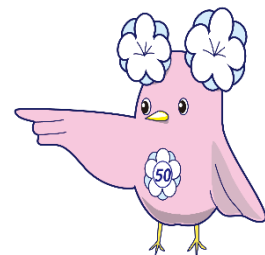


なんぼつ
③難発(ブロック・つまり)

※随伴症状(不自然に体を動かす、顔をしかめる、呼吸を乱れる等)が見られることもあります。

吃音は症状の有無や軽重だけが課題ではありません。症状が目立ちにくくても吃音を意識するあまり、話すことに不安を感じたり、話すことを避けてしまったりするようになる子もいます。そのため、吃音の症状だけでなく、吃音に悩む心理面についても注意する必要があります。

○吃音の基礎知識



★原因は特定されていません。

吃音の原因を探る様々な研究がなされていますが、現在のところ、原因は究明されていません。ただし、研究の中で判明していることもあります。「吃音のある人は、100人に1人くらいの割合」であり、「本人の性格や保護者の育児方法が原因ではない」のです。

★人によって、言葉の言いにくさが違います。

症状の種類、症状の量、言いにくい音など、人によって様々です。症状が出やすい場面も様々で、音読、会話、発表などと異なります。特定の場面に苦手意識をもつことで、心理的に負荷がかかり、症状が重くなることもあります。

★症状には、波があります。

時期や場面、相手などによって症状の出方に変化があります。症状が目立ちにくくなることもあれば、一時的に症状が目立ちやすくなることもあります。症状のみに注目するのではなく、本人の心理状態と合わせて捉える必要があります。

★治療方法は確立していません。

「これをすれば吃音が治る」という方法はまだ確立していません。完全に吃音をなくすことができないこともありますが、少しでも楽に話すための方法や、吃音と上手に向き合う考え方などが提唱されています。正しい知識をもち、自分の吃音について肯定的に理解したり、周囲が正しく理解したりすることで、上手く吃音と付き合っていくことができます。そのような過程の中で、症状が自然と軽減する方もいます。

★話すことが多い職業に就く人もいます。

アナウンサーや俳優、弁護士、教師など話す場面が多い仕事に就く方がたくさんいます。総理大臣や、オリンピックの金メダリストにも吃音がある方がいらっしゃいます。吃音があるからと言って、何かを諦める必要はありません。

○吃音の困り感って？

吃音の困り感は、症状が出てしまいうまく話せないということだけではなく、吃音が出た後に感じる感情や、吃音が出ることを考えてしまう不安など、心理面も大きく関わってきます。吃音に起因する困り感についていくつか紹介します。

【音読や発表での困り感】

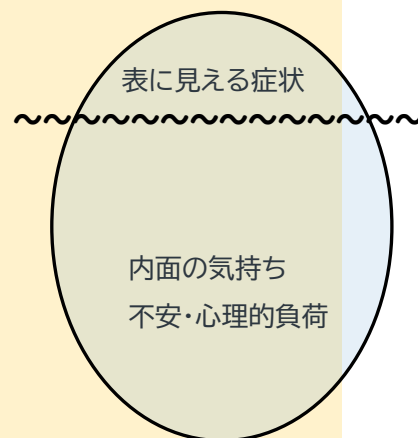
- ・音読や発表などでうまく声を出せない
- ・急に当てられると緊張して吃音が出やすい
- ・人前で音読する際に予期不安が大きく、負担がある

【生活上の困り感】

- ・うまく声を出せないことからかわれる・真似をされる
- ・吃音が出ることを心配して、話すことを避ける
- ・吃音についての正しい知識がなく不安になる
- ・話している途中で先回りされてしまうことで、不全感を感じる

【評価に関連した困り感】

- ・声が出せないことを、理解していない・態度が悪い
などと勘違いされ、成績に影響したり、怒られたりする



シーアンの氷山モデルを参照 ▲

吃音の症状が様々あるように、吃音から来る困り感も多種多様です。1人1人の症状、思い、環境などを踏まえながら、吃音の困り感を軽減していく方法を考えていく必要があります。

○クラスでお願いしたい配慮

★相談できる環境(関係)作り

吃音で困っていることを話せる関係性が大切です。吃音について話すことを「いけない」と思っている子もいます。吃音に関わらず、困ったことがあれば相談できる雰囲気を作っていたきたいです。

★吃音をからかうことがないように指導する

吃音症状は本人の意思と関係なく出てしまうものです。吃音に対して指摘をされることは絶対に避けたいことです。クラス全体の発達段階を踏まえて、吃音に対する理解を求める指導をお願いします。吃音に関して理解のある人が増えることで、安心感につながります。

★本人の意見を尊重する

吃音に対する対応は、その子の考え方によって変わります。その子が、どんな時に何に困るのか、どうしてほしいかを確認していただきたいです。

★症状が出た時の対応

症状が出た時の対応によって、大きく傷ついてしまうことがあります。基本的には、声の様子ではなく、本人の話す内容に注目し、評価してほしいです。音読や発表など、授業中に声を出す場面については事前に対応を確認できると安心することができます。また、必要に応じてクラス全体に吃音が出た時の対応を共有することで、より安心して授業に臨むことができるかもしれません。

○通級ではこんなことをしています

通級では、その児童に必要なことは何か、常に考えながら柔軟な指導を行います。



- ・一般的な、吃音の知識についての学習。自身の吃音について知るための学習
- ・吃音との向き合い方、付き合い方、困ったときの対処方法について考える学習
- ・吃音だけでなく、自己理解を促すための学習
- ・吃音に関連する、日頃の環境調整の提案や、実際に在籍学級との間に入って調整をする
- ・安心できる環境を提供し、自分の好きなことを思いきり楽しむ中で、吃音に捉われず自己表現したり、気持ちを開放させたりする経験を積ませる学習
- ・自分以外の、吃音のある児童との交流(吃音グループの実施)
- ・楽に声を出すための工夫を学んだり、楽に発声できた経験を積んだりする学習
(これらの工夫が、常に吃音を改善させるとは限らないため、本人が希望した場合に指導しています)
- ・吃音に関する、その他関連機関の紹介(病院・セルフエスティームグループなど) など

<参考文献> ・ 中学校、高等学校の先生方へ【東京都難聴・言語障害教育研究協議会】
・ 吃音の正しい理解と支援のために【広島市言語・難聴児育成会 きつおん親子カフェ】
・ 吃音の冰山モデル【Sheehan, 1970】